



原敬像（岩手県公会堂地内）

「宝積（ほうじゃく）」の心で

～学びと活動の好循環にむけて～

現在、我が国は少子高齢化の人口減少社会にあり、今後さらに進行すると言われてい

ます。国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」によりますと、日本の総人口について2015年と2040年を比較すると、約1億2700万人から約1億1100万人へと減少すると予想されています。また、14歳以下の人口の割合も、12.5%から10.8%に減少するとされています。

本県の人口についても、2015年と2040年を比較すると、約128万人から約95万人へと減少し、14歳以下の占める割合も11.8%から9.5%に減少すると推計されています。

さらに、65歳以上の占める割合は、全国では26.6%から35.3%へ、本県では30.4%から41.2%へと増加すると予想されています。

このように少子高齢化が進み、人口が減少すると予想される中で、同研究所の「日本の世帯数の将来推計(平成31年推計)」によりますと、2040年の総世帯数は、2015年比で全国においては4.8%、本県においても13.4%の減少と予想されています。しかしながら、2040年の単独世帯数は、2015年比で全国的には8.3%の増加、本県では0.4%減少とほぼ横ばいと予想されています。

つまり、全国的にも、本県においても、一人暮らしの世帯が増加することが考えられます。さらに、高齢化率が高くなることを踏まえると、高齢

者の一人暮らしの世帯の増加も予想され、地域における人と人のつながりが、これまで以上に大切になると思われます。

このような中、平成30年12月に、「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」が、中央教育審議会から答申されました。この答申は、これからの地域社会を持続可能なものにするとともに、人生100年時代における個人の充実した人生を実現するため、社会教育の視点から地域が抱える課題解決を図る方策を審議したものです。

特に、学びと活動の好循環の下で、「社会教育を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくり」を推進することが提言されています。

平成30年7月に内閣府から公表された「生涯学習に関する世論調査」によりますと、この1年間で「学習したことがある」と回答した人の割合は58.4%となっています。(グラフ1)

学習を行った理由については、「教養を深めるため」が37.1%、「人生を豊かにするため」が36.2%、「仕事に必要性を感じたため」が32.7%、「家庭や日常生活に生かすため」が32.1%、「健康の維持・増進のため」が29.9%となっています。しかし、「地域や社会における活動に生かすため」は16.9%となっています。(グラフ2)

また、学習成果の活用状況については、学習し

た人の 94.8%が、「生かしている（以下「生かせる」も含む）」と回答しています。さらに、どのように学習成果を生かしているかについて見てみますと、「自分の人生を豊かにしている」が 50.5%、「仕事や就職の上で生かしている」が 47.9%、「家庭や日常の生活に生かしている」が 40.0%、「健康の維持・増進に役立っている」が 31.5%となっています。しかし、「地域や社会の活動に生かしている」については 21.2%となっています。（グラフ 3）

これらのことから、自分自身や家族のために学習を行ったり、学習の成果を生かしたりしている傾向があると言えます。

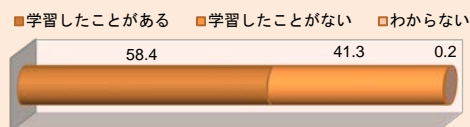
その一方で、地域社会での活動への参加意欲については、「参加してみたい」と回答した人が 79.9%となっています。前述のとおり、現在の生涯学習は自己完結的な傾向がありますが、個々の地域活動や社会貢献に対する意識は高いことが分かります。また、行ってみたいと思う具体的な活動については、多様な活動がほぼ同じ割合で挙げられており、興味や関心、価値観の多様化がうかがえます。（グラフ 4）

これからの生涯学習・社会教育は、地域活動や社会貢献を行いたい、他の人の役に立ちたいと思う住民のニーズを把握しながら、学びの機会を提供し、その学びの成果を生かすことのできる地域活動へ、より細かくつないでいくことが、さらに重要になってくると考えられます。

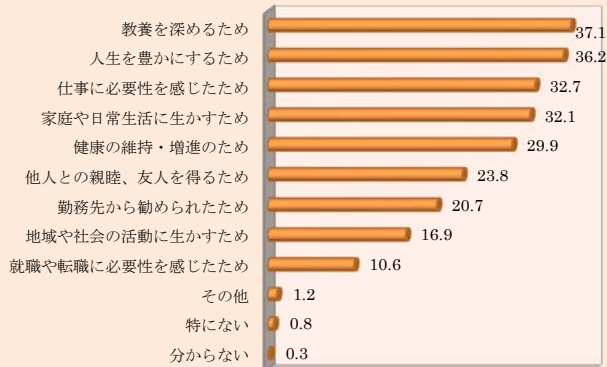
さて、郷土の先人・原敬が大切にした言葉に、「宝積（ほうじゃく）」という言葉があります。意味は、「人に尽くして、見返りを求めない」ことです。

皆さんもご承知のとおり、原敬は、平民宰相として日本初の政党内閣を組織し、国際協調と産業立国を重視しながら、平和的な産業国家づくりに尽力しました。また、地方の発展が国家の発展につながるという考えから、教育の拡充や交通機関の整備に努めた人でもあります。その原敬の政治姿勢や生き方が、この言葉に凝縮されているのだ

グラフ 1 【この 1 年間の学習の有無】



グラフ 2 【学習をした理由】



グラフ 3 【学習成果の活用状況】



グラフ 4 【地域社会での活動への参加意欲】



生涯学習に関する世論調査 (H30 内閣府) 単位: %

と思います。

今後、一層の人口減少社会の進行が予想される中、社会教育には、学びと活動の好循環による人づくり、つながりづくり、地域づくりが求められています。地域社会に参加的に関わりながら学び、学び合うことを通じて、ともに生きる地域づくりにつなげていきたいものです。

その礎として「宝積」の心をもちながら。

(所長 藤原 安生)

～岩手の人づくり・地域づくりフォーラム 2019～

岩手県生涯学習推進研究発表会

[2月6日(木) 午後 13:45～15:45]

★【研究発表】 当センターの今年度の研究成果を発表します。

(1) 地域づくりにおける社会教育の意義に関する研究

※市町村の人づくり・つながりづくり・地域づくりに向けた社会教育のあり方について探ります。

(2) 市町村における家庭教育支援のあり方に関する実践的研究

※岩手の現状を踏まえた家庭教育支援のあり方について探ります。



[2月7日(金) 午前 9:40～12:00]

★【事例発表・協議】「多様な家庭教育支援の事例に学ぶ」

① 北海道白老町子育て支援課訪問型家庭教育支援チーム「ぴんぽーん」

代表 中谷通恵氏

② 盛岡市教育委員会事務局生涯学習課

主任 田村真由美氏

③ 秋田県能代市家庭教育支援チーム「ぱれっと」

代表 田中直美氏

コーディネーター

お茶の水女子大学

名誉教授 牧野カツコ氏

[2月7日(金) 午後 13:00～15:00]

★【講演】

「家庭教育の充実のために、

みんなで子どもを育てる社会を」



〔講師紹介〕

お茶の水女子大学卒業。東京大学大学院教育学研究科博士課程満期退学。専門は、家族社会学、家庭科教育学。宇都宮大学助教授、横浜国立大学助教授、お茶の水女子大学大学院教授を経て、2011年より宇都宮共和大学子ども生活学部学部長。2015年より同大学副学長。現在は、宇都宮共和大学特任教授、同大学子育て支援研究センター長、お茶の水女子大学名誉教授。

著書に『子育てに不安を感じる親たちへ』（2005年、ミネルヴァ書房）。『国際比較に見る世界の家族と子育て』（2010年、ミネルヴァ書房）。共著に『子どもと地域と社会をつなぐ家庭支援論』（2015年、福村出版）など多数。

お茶の水女子大学 名誉教授
牧野カツコ氏

日時

令和2年 **2月6日(木)** 13:30～15:45

2月7日(金) 9:40～15:00

会場

岩手県立生涯学習推進センター

〒025-0301 花巻市北湯口2-82-13 TEL 0198-27-4555

※詳しくは「まなびネットいわて」URL:<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/> で検索!

八幡平市地域振興課から、特色ある事業について寄稿いただきました。



本物を味わう「八幡平市芸術祭」



八幡平市は「農（みのり）と輝（ひかり）の大地」を市の将来像として、「ともに暮らし、しあわせ感じる八幡平市」の実現をめざしています。市では、第2次八幡平市総合計画の部門別計画と位置付けた『市生涯学習推進計画』を策定し、学びを通したまちづくりの推進に取り組んでいます。

八幡平市芸術祭

八幡平市芸術祭は毎年、舞台部門と作品展示部門を開催しています。舞台部門は音楽と芸能の各発表を行い、地域の学校・音楽団体や芸能団体、郷土芸能の発表の場として、日ごろの練習の成果を披露する絶好の機会となっています。

また、作品展示部門は、団体・個人・小中高生・幼児の作品を一堂に展示し、市民の作品発表と鑑賞の場として親しまれています。

優れた鑑賞機会の提供

芸術祭舞台部門は、主に市民で構成される団体等の発表の機会としては好評ですが、参加団体が毎年ほぼ同じ顔触れとなっていました。そこで、優れた演奏などにふれることが今後の市民団体の活動促進につながるものと考え、県内外で活躍されている音楽家をゲストとしてお呼びしています。



舞台発表（市内中学校吹奏楽）

八幡平市の宝を発掘

作品展示部門でも、市民の作品発表と併せ、優れた芸術作品を鑑賞する機会が必要と考え、市芸術文化協会と共に、当市の宝（芸術家）の掘り起こしを行いました。市内に様々な分野の芸術家が多数おられる中で、数々の賞を受賞し、日本水彩展の審査員も務められた水彩画家をご紹介いただき、特別展示が実現しました。

来場者からは、「自分の住んでいる地域にこんなに素晴らしい画家がいるとは知らなかった」との声が聞かれました。



特別展示

伝統芸能の保存・継承

当市には、市指定の無形民俗文化財をはじめ、地域に根差した活動を行っている伝統芸能団体がありますが、近年の少子高齢化により存続が危ぶまれている団体も少なくありません。

本年度の芸術祭では、「伝統芸能の保存・継承活動のヒントになれば」と、花巻市から「倉沢人形歌舞伎」の皆さんをお招きし、公演を行っていただきました。



倉沢人形歌舞伎

今回は、八幡平市芸術祭を紹介しました。本物を味わうことで、市民の生涯学習活動の一助になればと考えています。

「岩手県立生涯学習推進センター情報」第102号

編集・発行 岩手県立生涯学習推進センター

facebook

Twitter

